

政策Ⅰ 林業・木材産業の一層の産業力強化

主な施策の実施状況

①産業力の強化を図るため、川上側の高性能林業機械導入（生産性向上）を支援しているほか、川下側の合板・製材工場等の木材加工流通施設の整備（高付加価値・競争力強化）を支援した。



フェラーパンチャ

【概要】

- ・高性能林業機械等導入支援
- ・木材加工流通施設支援 [R3実績] 計12件



フォワーダ



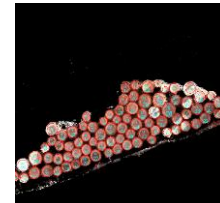
木材乾燥機



木材の出荷情報を管理する機器

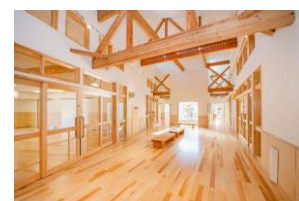
【概要】

- ・ICTを活用した木材需給調整システムの整備支援
- ・Webによる入札システム導入支援
- ・ICT搭載機械や写真見検知システム等の現地検討会実施



写真検知システム解析画像

③木材需要の創出を図るため、宮城県CLT等普及推進協議会と連携し、様々な場面での建築等におけるCLT活用に向けた取組を支援した。



CLTを活用して建設された認定こども園

【概要】

- ・CLT建築等に対する支援 [R3実績] 3件
- ・現場技術者育成支援



県産CLTベンチ



CLTパーゴラ



小型木質バイオマス熱電供給施設

【概要】

- ・未利用材の運搬・搬出経費補助 [R3実績] 7件
- ・ネットワーク形成支援 [R3実績] 3件



移動式チップパーによるチップ化

⑤木材利用の促進を図るため、県産材を使った木造住宅の建築や、公共性の高い民間施設等における木質化に対し支援した。

【概要】

- ・県産材利用住宅支援 [R3実績] 572件
- ・内外装の木質化の支援 [R3実績] 101件



県産材を使用した住宅

⑥森林経営計画の策定率向上に向け、森林所有者や林業事業者等による施業・経営の集約化を支援するとともに、林地台帳の整備支援や、市町村等との情報共有化を図るためのクラウドシステムを導入した。

【概要】

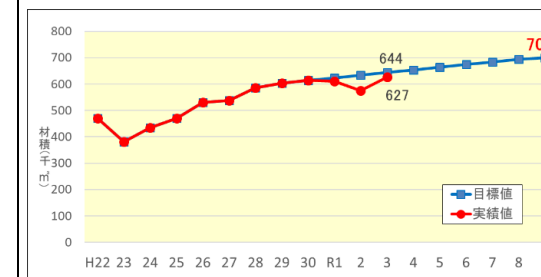
- ・森林情報の適正化 [R3実績] 15市町
- ・森林経営計画策定支援



森林経営計画作成に向けた打合せ

主な目標指標の達成状況

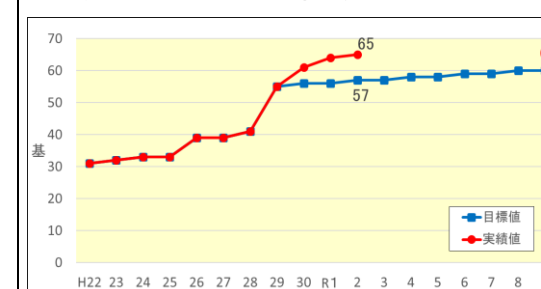
◎素材生産量 [年間]



○ 令和3年度の目標値644千m³に対して、実績値で627千m³となった。

○ 令和2年度は新型コロナウイルスの影響による一時的な減少があったが、ウッドショックによる国産材の需要の高まりや、生産性の向上などにより、概ね目標値を達成している。

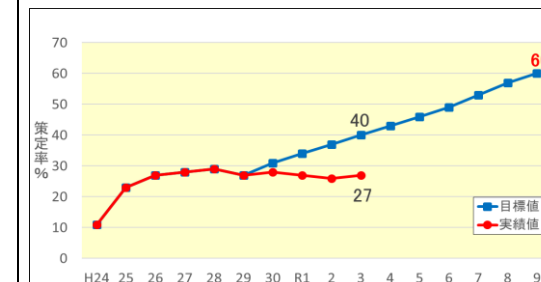
◎木質バイオマス活用施設導入数 [累計]



○ 令和2年度の目標値57基に対して、実績値で65基となった。

○ 再生可能エネルギーへの関心の高まりを背景に、施設導入数が増加し、目標値を上回る結果となった。

◎森林経営計画の策定率 [累計]



○ 令和3年度の目標値40%に対して、実績値で27%となった。

○ 人工林が利用期を迎え、主伐が進む一方、主伐後に新たな計画策定が進まず、目標値を大きく下回った。

政策Ⅱ 森林の持つ多面的機能のさらなる発揮

主な施策の実施状況

①森林の二酸化炭素吸収機能や水源涵養機能などの公益的機能を高度に発揮させるとともに、旺盛な木材需要に応えていくため、間伐や路網整備を支援した。

【概要】

- ・間伐実施への支援 [R3実績] 1,125ha (補助事業による実績であり、県全体の実績は集計中)
- ・路網整備への支援 [R3実績] 140,793m



高性能林業機械による間伐



間伐後の森林

②人工林伐採後の再造林を推進するとともに、造林コストの低減を図るため、「伐採と造林の一貫作業システム」の普及などに取り組んだ。

【概要】

- ・一貫作業システムによる再造林の普及 [R3実績] 再造林面積 158ha
- ・防鹿柵設置への支援



一貫作業システム検討会



防鹿柵設置

③松くい虫被害から特別名勝「松島」地域等の重要な松林を守るため各種防除対策を推進している。また、被害跡地に松くい虫抵抗性マツを植栽し松林の再生と景観保全を図った。



抵抗性マツ植栽

【概要】

- ・伐倒駆除 [R3実績] 7,032m³ (市町村単独事業は含まず)
- ・薬剤空中散布 [R3実績] 388ha
- ・薬剤地上散布 [R3実績] 103ha
- ・薬剤樹幹注入 [R3実績] 1,288本
- ・抵抗性マツ植栽 [R3実績] 2,400本

④山地災害の未然防止や、令和元年東日本台風で被災した森林等の復旧のため、治山対策を計画的に推進した。

【概要】

- ・治山事業の実施 [R3実績] 50箇所
- ・治山施設点検診断

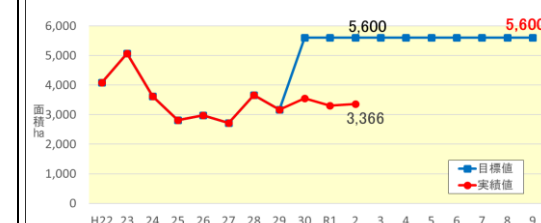


治山施設(治山ダム)



治山施設(山腹工)

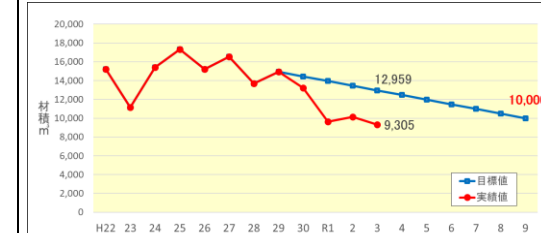
◎間伐実施面積 [年間]



○ 令和2年度の目標値5,600haに対して、実績値で3,366haとなった。

○ 人工林の約8割が本格的な利用時期を迎えてきており、間伐が真に必要な林分は限られつつあるとともに、集約化等による間伐の低コスト化も十分に図られていない。また、労働力不足も要因と考えられる。

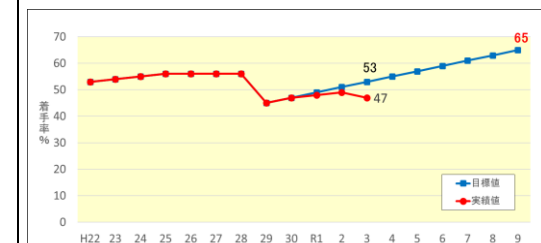
◎松くい虫被害による枯損木量 [年間]



○ 令和3年度の目標値12,959m³に対し実績値は9,305m³となり、目標値を達成した。

○ 気象条件によっては再び増加に転じるおそれもあることから、引き続き市町村等と連携しながら防除対策を徹底し、更なる被害の低減を図っていく必要がある。

◎山地災害危険地区(Aランク)の治山工事着手率 [累計]



○ 令和3年度の目標値53%に対し実績値は47%となっている。

○ 近年自然災害が頻発化・激甚化しており、その都度被害箇所を山地災害指定地区に指定していることから、Aランク地区数の母数は増加している。



間伐材の搬出



林業専用道の開設



高性能林業機械による伐採



コンテナ苗による造林

伐採造林の一貫作業システム